

## PRESS RELEASE

文部科学記者会 各位

2019年11月18日

### 麻布大学、コホート研究によりイヌとの共生による健康向上の解明を推進 ヒトのメンタルヘルス促進に有効な細菌を探査

麻布大学（学長：浅利昌男、本部：神奈川県相模原市、URL：<https://www.azabu-u.ac.jp/>）は、ヒトと動物の共生システムを科学的に解明する大学として教育・研究に取り組む中、本学獣医学部動物応用科学科の准教授 茂木一孝（伴侶動物学研究室）を代表とする研究チームが、コホート研究の活用によりイヌとの共生による健康向上を解明する研究を強化します。

同研究チームは、異動物間の細菌叢クロストークに着目し、ヒトがイヌとの共生で健康が促進するメカニズムを解明する研究を進めています。また、東京都医学総合研究所を中心となって実施している思春期のメンタルヘルスに関する大規模疫学調査である東京ティーンコホートに参画しています。これらの研究から、ヒトのメンタルヘルス促進に有効な細菌を探査することを目指しています。このような手法によるヒトの健康促進の解明に取り組む研究は、国内の大学としても前例のない先進的な研究の取り組みです。



東京ティーンコホートでは、アンケート調査と並行して、参加者から約370名の児童を抽出して研究所に来てもらい、より詳しいアンケートや健康チェックを行う来所型追跡調査を行っています。同研究チームもここに参加して動物飼育のより詳しいアンケートをとり、その児童から唾液や皮膚の細菌叢をサンプリングしています。現在、調査は進行中ですが、男児ではイヌの飼育経験がある場合、ひきこもり、不安、抑鬱、攻撃性などについて、飼育経験がない子どもよりも良好な結果が得られており、10-12歳の男児では幼少期のイヌの飼育がメンタルヘルスに好影響を与えることが分かってきました。

同研究チームは、1万年以上に及ぶ長いイヌとの共生の歴史をふまえると、イヌとヒトの常在細菌叢は異種間でありながらも相互作用しやすくなっています。そのことがメンタルヘルスに影響する可能性が高いと推測しており、イヌからヒトへ伝搬する有用なノマド細菌叢を特定し、特にメンタルヘルスにおける健康促進のメカニズムの解明を目指しています。

また今後、コホート研究で標準となるような動物共生の適正かつ効率的な曝露評価方法の開発を目指して研究を推進していきます。

茂木准教授の研究チームは、文部科学省私立大学研究ブランディング事業、『動物共生科学の創生による、ヒト健康社会の実現～地球共生系「One Health」～』（研究統括者：菊水健史教授）の1つのプロジェクトです。本研究成果は本年7月29日に開催された同研究事業の国際シンポジウムにおいて成果報告が発表されました。

### ●東京ティーンコホート研究

世田谷区、調布市、三鷹市に在住の子供（10歳、12歳、14歳）とその養育者の方（主に母親の方）を対象とした、普段の生活や健康に関するアンケート調査を実施。2012～2014年にスターとした10歳時点の調査では4478世帯が協力し、2014～2016年の12歳時点での調査では9割以上が継続して参加しています。

アンケート調査からは各児童の社会性の問題、思考の問題、注意の問題、攻撃的行動、不安・抑うつ、ひきこもり、などの様々な心理尺度を数値化します。これらが犬飼育（犬種、飼育歴、飼育形態など）によってどのような影響があるかを調査。コホートの14歳時点の調査が終了したばかりで、本格的な解析はこれから行う予定です。

<http://ttcp.umin.jp/>

### ●麻布大学の文部科学省私立大学研究ブランディング事業

麻布大学は、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業（タイプB：世界展開型）として、事業名、『動物共生科学の創生による、ヒト健康社会の実現～地球共生系「One Health」～』に2016年度に採択されました。本事業では、ヒトと動物の共生を科学的に解明し、その成り立ちを介してヒトの健康社会に寄与する、という新しい学問領域の創設を目指しています。

同事業では次の3テーマで現在（2019年度）は8研究プロジェクトの課題の研究が行われています。

1. ヒトと動物における認知インターラクション解析：
2. ヒトと動物の微生物クロストーク：
3. 動物との共進化遺伝子の同定：

#### <関連情報>

- ・ 麻布大学 文部科学省私立大学研究ブランディング事業に関して  
<https://project.azabu-u.ac.jp/>
- ・ 国際シンポジウムの開催に関して  
[https://project.azabu-u.ac.jp/symposium2019\\_jp.pdf](https://project.azabu-u.ac.jp/symposium2019_jp.pdf)
- ・ 同研究チームに関して  
<https://lab-navi.azabu-u.ac.jp/va-07/index.html>

#### <本件のお問い合わせ先>

麻布大学 広報課 担当：栗末、有嶋

- ・ 電話：042-769-2032、メール：[koho@azabu-u.ac.jp](mailto:koho@azabu-u.ac.jp)
- ・ HP <https://www.azabu-u.ac.jp/>